

サステナビリティレポート 2025

すべての人々が人間らしく生きられる、 豊かな地球を未来のこどもたちへ

伝統的な文化や産業、みどり豊かな山々、そしてきれいな水にめぐまれたこの福島県をこどもたちや孫たちの世代に伝え残していきたい。美しい会津の風景を守りたい。



写真提供 Takashi Endoh さん

※今回より名称を「環境報告書」から「サステナビリティレポート」に変更しました。

コープあいづは、持続可能な社会の実現に向けて、「コープあいづの環境・サステナビリティ政策とアクションプラン」を制定し、組合員さんと一緒に活動を推進していきます。このレポートを公開することで、より多くの方とコミュニケーションをし、その実現をめざしていきたいと考えています。

はじめに

2024 年は、昨年が続いて気温の高い 1 年になり、2 年連続で最も気温の高い年になりました。そして、ここ数年と同じように猛暑や大雨、台風などが印象に残る一年となっています。その原因は、地球温暖化が進んでいることや、昨年から継続している海面水温の高い状況が大きな要因として考えられます。会津地域でも、8 月には局地的に猛烈な雨が降り、喜多方と猪苗代では日最大 1 時間降水量の値が観測史上 1 位を記録しました。また、2024 年 12 月～2025 年 2 月は大雪となり、1 月、2 月には、会津に大雪警報が発表され、私たちの暮らしに大きな影響を与えました。今後、地球温暖化が進むにつれて、100 年に一回、50 年に一回などの極めてまれに起こる大雨の頻度や強度がどのように変わるかが懸念されています。

エネルギー問題では、国内のエネルギー政策の基盤となるエネルギー基本計画の見直しに向けた議論が進められ、2025 年 2 月に第 7 次エネルギー基本計画が閣議決定されました。電源構成は、化石燃料による発電の割合を減らし、再生可能エネルギーと原子力による発電割合を増やすこととし、2030 年度に 36%～38%としている再生可能エネルギーの割合を、2040 年度の時点ではさらに引き上げ 40～50%程度とすること、現在 5%程度の稼働構成となっている原子力発電については、20%程度を維持する方針となっています。再生可能エネルギーの比率を高める点では歓迎できますが、原子力発電を維持拡大することに関しては、エネルギーの安定供給が必要と言え、安全面や使用済み核燃料の処分が見通せない中、原子力発電を続ける事には疑問を感じます。

福島県では、2024 年 10 月 8 日に「福島県カーボンニュートラル条例」が公布されました。地球温暖化による気候変動の影響は、自然災害の頻発化や災害級の猛暑など、目に見える形で私たちの生活に及んでいます。地球温暖化を食い止めるためには、まさに今、行動を起こす必要があります。気候変動は暮らしに関わる問題です。コープあいづでも、全国の生協と一緒に推進する「環境サステナビリティ政策」を策定し、①2030 年に事業における CO₂排出総量を 2013 年度比で 73%削減します。②2050 年までに、ゼロカーボンを目指します。の目標を掲げ、気候変動の主な要因となる温室効果ガスの削減に取り組んでいきます。

未来の子どもたちに、安心して暮らすことのできる環境を継承するため、会津の美しい自然を守るため、組合員さんと一緒になって気候変動対策に取り組んでいきます。

図 3.3 福島県における平均気温予測マップ

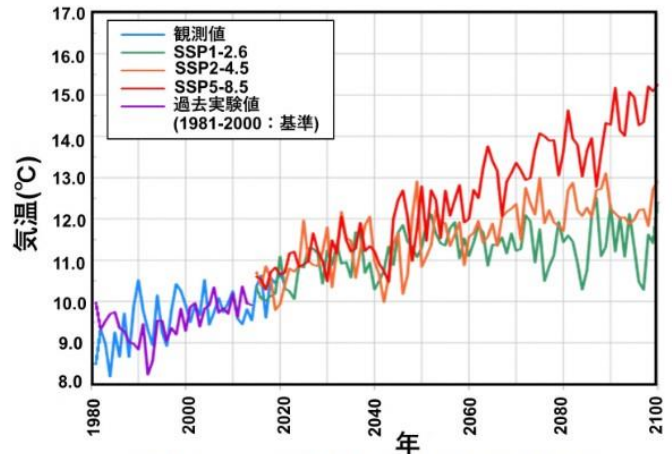


図 3.4 シナリオ別の平均気温の推移予測

「福島県の気候変動と影響の予測」より

環境方針

*****コープあいづが目指すこと（ビジョン）*****

「この地域に生協があってよかった。生協があるから安心して暮らしていける。」と組合員さんに喜ばれ、必要とされ続けるコープあいづを目指します。

***** 方 針 *****

生活協同組合コープあいづは、生協の21世紀理念「自立した市民の協同の力で人間らしい暮らしの創造と持続可能な社会の実現を」を実現するために、2030 環境サステナビリティ政策を策定し、組合員と職員が力をあわせ、事業活動における環境負荷の低減を図り、会津の豊かな自然を未来に引き継ぐことで、持続的に発展する社会づくりに寄与していきます。

1. 持続可能な社会を目指して、「気候変動対策」「エシカル消費」「省資源・資源循環の推進」「自然との共生」の視点で、環境・サステナビリティ政策を推進します。

- ・ エシカル消費に対応した商品を拡大・普及させ、エシカル消費に共感できる消費者を社会の中に増やしていきます。
- ・ 生協事業のサプライチェーン全体と、組合員の生活における温室効果ガス排出削減に取り組みます。
- ・ 再生可能エネルギーの開発を通して、日本における再エネ導入量を増加させるとともに、持続可能な地域づくりに貢献します。
- ・ 生協事業で使用するプラスチック製容器包装と紙を削減します。また、持続可能な原材料への切り替えを進めます。
- ・ 生協事業から排出される容器包装等の回収・リサイクルを、組合員とともに推進します。
- ・ 生協事業ならびに 組合員家庭から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減を進めます。
- ・ 組合員とともに環境保全活動を推進し、自然共生社会の実現を指します。

2. 環境マネジメントシステムの継続的な改善に努め、事業効率を高め、経済と環境の発展を目指します。

3. 環境側面に関わる法規制等を順守し、汚染の予防に努めます。

4. 全職員及び業務委託先に教育や啓発を行い、環境方針の理解と環境意識の向上を図ります。

この環境方針を広く公開し、環境活動の取り組み状況について定期的に公表します。

2025年4月28日制定
生活協同組合コープあいづ
理事長 吉川毅一

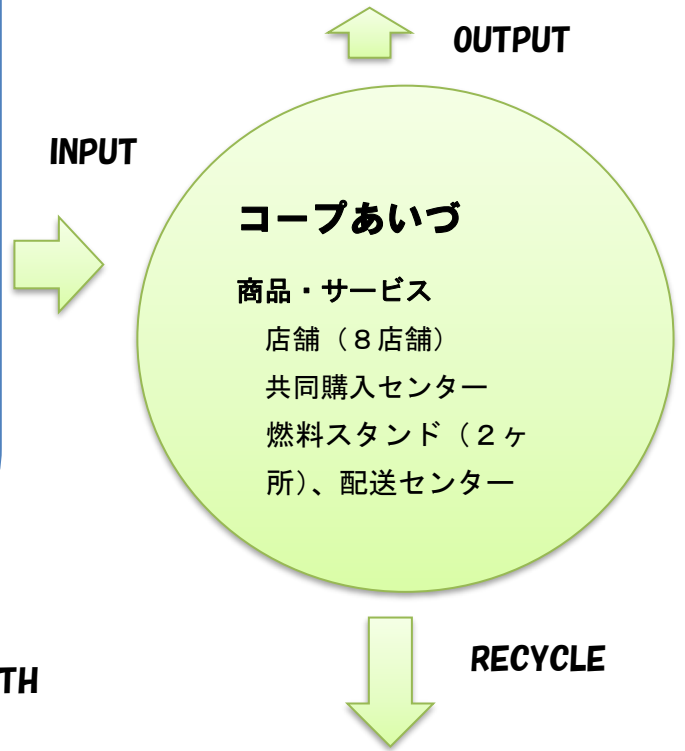
2024 年度 事業活動による環境負荷

主な INPUT (投入)

- 商品
- 工用原材料
- エネルギー、水資源 (前年比)
 - 電気・・・8,204,775kWh (101%)
 - ガス (LPG)・・・65,922m³ (101%)
 - 灯油・・・26,789ℓ (138%)
 - 軽油・・・93,574ℓ (100%)
 - ガソリン・・・29,086ℓ (75%)
 - 上水道・・・38,511m³ (101%)
- 資材 (前年比)
 - レジ袋・・・3,198kg (95%)
 - 容器包装資材 (トレイ・ラップ等)
 - ・・・84,242kg (98%)
 - 内袋・・・5,049kg (100%)
 - ドライアイス・・・48,920kg (97%)
 - コピー用紙・・・8,938kg (79%)
 - 新聞チラシ・・・46,013kg (100%)
 - POP 用紙・・・5,167kg (111%)

OUTPUT (排出)

- 廃棄物 (前年比)
 - 一般廃棄物・・・372,079kg (95%)
 - 産業廃棄物・・・117,650kg (103%)
- 大気への排出 (前年比)
 - CO₂・・・1,684 t (176%)
 - フロン (CO₂)・・・825t (130%)



RECYCLE (リサイクル)

- 事業活動の中で取り組んでいるもの (前年比)
 - 商品案内・・・272,810kg (99%)
 - 共同購入シッパー内袋・・・2,080kg (100%)
 - 食品残さ・・・101,120kg (81%)
 - 廃食油・・・7,561kg (82%)
 - 新聞・雑誌・・・5,677kg (76%)
 - ビン・缶・ペット・・・341kg (48%)
 - ダンボール・・・265,186kg (104%)
- 組合員のリサイクル活動 (前年比)
 - 牛乳パック・・・7,655kg (90%)
 - 発泡トレイ・・・4,883kg (104%)
 - 透明トレイ・・・2,892kg (104%)
 - 新聞(エコステ)・・・6,475kg (230%)
 - 雑誌(エコステ)・・・24,599kg (220%)
 - ダンボール(エコステ)・・・8,874kg (136%)
 - ペットボトルキャップ 495kg (76%)

持続可能な社会を目指して



コープあいづは、日本生協連の「SDGs行動宣言」に賛同し、持続可能な社会づくりに取り組みます。

「SDGs 行動宣言」とは、SDGs の達成にむけ、生協もその一端を担うべく策定された行動宣言です。

7つの取り組みを通じてSDGs の実現に貢献することを約束します。

コープあいづは、「一人は万人のために 万人は一人のために そして次世代のために」の精神を掲げ、「自立した市民の協同の力で、人間らしい暮らしを創造し、持続可能な社会を実現する」という21世紀の生協の理念に基づいて、組合員さんと職員が一緒になって、ユニセフの活動や食育の推進、環境に配慮した商品の利用や普及、ピースアクションなどの平和への取り組みを行っています。

SDGs の「誰一人取り残さない」という原則は、コープあいづの目指す事でもあります。SDGs の17の目標を169のターゲット実現に向け、コープあいづでも日本生協連の「行動宣言」としてまとめられた7つの取り組みを一緒に進め、SDGs の実現に貢献していきます。

□スローガン

すべての人々が人間らしく生きられる豊かな地球を、未来のこどもたちへ

□コープSDGs 行動宣言

1. 持続可能な生産と消費のために、商品と暮らしのあり方を見直していきます。
2. 地球温暖化対策を推進し再生可能エネルギーを利用・普及します。
3. 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します。
4. 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します。
5. ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します。
6. 誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します。
7. 健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます。

コープあいづは、SDGs（持続可能な開発目標）に貢献することを約束（コミット）します。持続可能な社会の実現の為、地球上のみんなが「笑顔」で暮らせる為、日本生協連の「SDGs 行動宣言」を実現する為に取り組みを進めていきます。



□ コープあいづの取り組み

番号	主たる目標と関連する目標	私たちが進めていく課題
1	12 持続可能な消費生活 1 貧困をなくそう 3 健康と福祉 6 安全な水とトイレ 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・ エシカル消費を進めます。 ・ 産直商品を普及拡大していきます。
2	7 再生可能エネルギー 13 気候変動に具体的な対策を	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温室効果ガスの排出量を削減していきます。 ・ 再生可能エネルギーを積極的に取り入れていきます。
3	1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに 4 質の高い教育をみんなに 6 安全な水とトイレ 10 人や国の不平等をなくそう	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニセフ募金に取り組みます。 ・ 子ども食堂などの支援やフードバンクやフードバンクに取り組みます。
4	16 平和と公正 17 パートナーシップで目標を達成しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平和の為の戦争展など、平和の大切さを学び継承していく活動に取り組みます。
5	5 ジェンダー平等をすすめる 8 持続可能な成長 10 人や国の不平等をなくそう	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジェンダーフリーと多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。
6	11 持続可能な都市とコミュニティ 9 持続可能な産業と雇用 3 健康と福祉 10 人や国の不平等をなくそう 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう 17 持続可能なパートナーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の見守り活動や、移動販売を通じて、地域における役割を果たしていきます。
7	3 健康と福祉 11 持続可能な都市とコミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・ より健康的な食生活を支えていく商品の普及を組合員と一緒に進めていきます。

※SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。SDGsは「誰一人取り残さない「No one will be left behind」ことを宣言し、経済、社会、環境をめぐる幅広い課題に、統合的、包括的に全世界で取り組むことを決めたものです。

コープあいづの環境・サステナビリティ政策とアクションプラン

生協の21世紀理念である「自立した市民の協同の力で人間らしい暮らしの創造と持続可能な社会の実現を」を達成するために、「生協の2030環境・サステナビリティ政策」を基に、コープあいづの環境・サステナビリティ政策を作り、取り組みを進めていきます。



<スローガン>

すべての人々が人間らしく生きられる豊かな地球を、未来のこどもたちへ

<コープあいづのビジョン>

「この地域に生協があってよかった。生協があるから安心して暮らしていける。」と組合員さんに喜ばれ、必要とされ続けるコープあいづを目指します。



行動指針 1：エシカル消費に対応した商品を拡大・普及させ、エシカル消費に共感できる消費者を社会の中に増やしていきます。

<コープあいつの目標>

- ① 日本生協連のエシカル消費対象商品の供給高を、2030年までに24億円まで拡大させます。
(2022年度対比約122%)
 - * 店舗：13億円→16億円 (2022年度対比約122%、毎年1%の伸長)
 - * 宅配：6.5億円→8億円 (2022年度対比約123%、毎年1%の伸長)
- ② コープあいつの店舗で扱う産直商品の供給高を、2030年までに3,700万円まで拡大させます。(2022年度対比約109%)

行動指針 2：生協事業のサプライチェーン全体と、組合員の生活における温室効果ガス排出削減に取り組みます。

<コープあいつの目標>

- ① 2030年に事業におけるCO₂排出総量を2013年度比で73%削減します。
- ② 2050年までに、ゼロカーボンを目指します。

行動指針 3：再生可能エネルギーの開発を通して、日本における再エネ導入量を増加させるとともに、持続可能な地域づくりに貢献します。

<コープあいつの目標>

- ・ 現時点では設定しませんが、今後の中で検討していきます。

行動指針 4：生協事業で使用するプラスチック製容器包装と紙を削減します。また、持続可能な原材料への切り替えを進めます。

<コープあいつの目標>

- ① 店舗で使用するプラスチック製容器包装の使用量を、2022年度対比で18%削減します。
- ② 宅配で使用する商品案内の配布重量を、2022年度対比で22%削減します。
- ③ 事業所で使用するコピー用紙の使用重量を、2022年度対比で10%削減します。

行動指針 5：生協事業から排出される容器包装等の回収・リサイクルを、組合員とともに推進します。

<コープあいつの目標>

- ① 店舗でのトレイ回収重量を、2022年度対比130%以上にします。
- ② 宅配での内袋回収重量を、2022年度対比150%以上にします。

行動指針 6：生協事業ならびに組合員家庭から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減を進めます。

<コープあいつの目標>

- ・ 食品廃棄物の発生量を、2022年度対比70%に削減します。

行動指針7：組合員とともに環境保全活動を推進し、自然共生社会の実現を目指します。

<コープあいつの目標>

- ・ 環境保全の取り組みや学習会、環境イベント・エコライフチャレンジの参加人数を 2023 年度対比で、400 人増加（40%増化）を目指します。

地球温暖化防止対策の推進



CO₂削減の取り組み

2024 年は産業革命以降でもっとも気温が高い年となりました。

地球温暖化は気温上昇だけではなく、地球全体の気候を大きく変える「気候変動」を引き起こし、異常気象による水害などの発生、海水温度上昇による台風の大型化、干ばつによる食料不足などをもたらし、人間の暮らしや経済に大きな影響を与えます。

これらの理由から、地球温暖化防止対策は喫緊の課題とされています。

私たち生活協同組合としても、暮らしを守る立場からも、今後一層の努力が必要になってきます。



(c) Tomo Akiyama

コープあいつの温室効果ガス削減目標

2030 年に事業における CO₂ 排出総量を 2013 年度比で 73%削減します。

2050 年までに、ゼロカーボンを目指します。

昨年度「コープあいつの環境・サステナビリティ政策とアクションプラン」制定時に、これまでの目標からさらに高い目標を設定しました。

コープあいつでは、これまでも天井照明の LED 化や冷凍冷蔵ケースの省エネ化、ノンフロン冷凍冷蔵ケースの採用など、行ってきました。

また、一部ショーケースの夜間停止や防露ヒーターのコントロール、設定温度の最適化、デマンドコントローラーによる運用管理や噴霧装置による室外機の熱交換フィンの冷却などの運用管理強化も行い、省エネに取り組んでいます。

今後は、営業車や配送用トラックの EV 化なども検討し、国や福島県が宣言している「カーボンニュートラル」実現に向け、更に努力をしていきます。



CO₂の総量削減に取り組んでいます。

～昨年度より約 727tの増加となりました～

削減率は、前年比 175.9%増加ですが、2013 年度対比 75.0%の削減となり、2030 年度末目標を前倒しで達成しています！

CO₂の発生源をエネルギー別で見ると、半分以上が電気によるものとなっています（全体の約 65%）。次に宅配事業による軽油の使用、店舗の暖房や厨房で使用するLPGの順となり、それらで全体の約 92%を占めています。

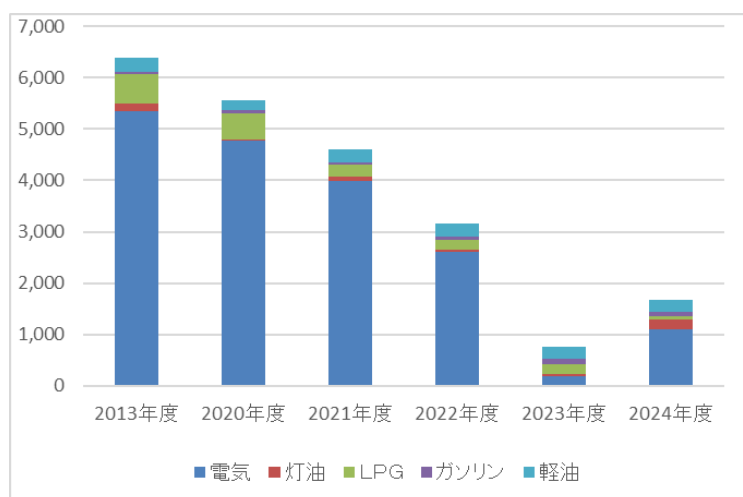
そのため、CO₂削減では、その3種類のエネルギーを減らすことが必要となります。

2024 年度のコープあいづが事業より排出している温室効果ガスの量は、約

1,684t-CO₂となり、前年度対比約 175.9%、2013 年度対比 25.0%となりました。増加の一番の要因は、排出係数に変更になったことです。これまで、基礎排出係数で試算を行っていましたが、今年度より新排出係数になったことから、会津エナジーの昨年の 0.000023t-CO₂/kWh から、0.000134 t-CO₂/kWh と高くなったからです。今後は、新排出係数で管理をしていきます。

CO₂削減の取り組みは、電気使用量が多い店舗が中心となります。主な取り組みでは、飲料などの冷蔵ケースの夜間停止、冷凍冷蔵ケースの設定を省エネ設定に変更、温度帯を四半期ごとに確認して設定温度の適正化、冷凍冷蔵ケースの冷氣漏れ防止暖簾の設置、デマンドコントローラーの活用と室外機の冷却噴霧装置の運用です。

課題としては、2 番目にCO₂の排出量が多い、宅配事業の車両燃料の削減です。配送コースの効率化や省エネ運転の実施などの対策を取っていますが、事業拡大により軽油の使用量が増加します。車両のEV化などの対策は効果的ではありますが、価格面や性能面でまだ実用的ではないと判断しています。



	2013年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	前年比	2013比
電気	5,981	4,936	4,379	729	378	1,099	290.9%	18%
灯油	140	34	86	45	48	199	411.8%	142%
LPG	281	506	224	192	195	67	34.2%	24%
ガソリン	58	53	46	60	90	74	82.5%	127%
軽油	279	199	262	253	246	245	99.7%	88%
CO ₂ 排出量（t）	6,739	5,728	4,998	1,279	957	1,684	175.9%	25.0%
2013年度比（%）		85.0%	74.2%	19.0%	14.2%	25.0%		

省エネルギーの取り組み



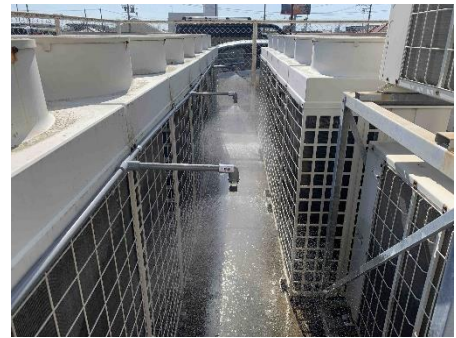
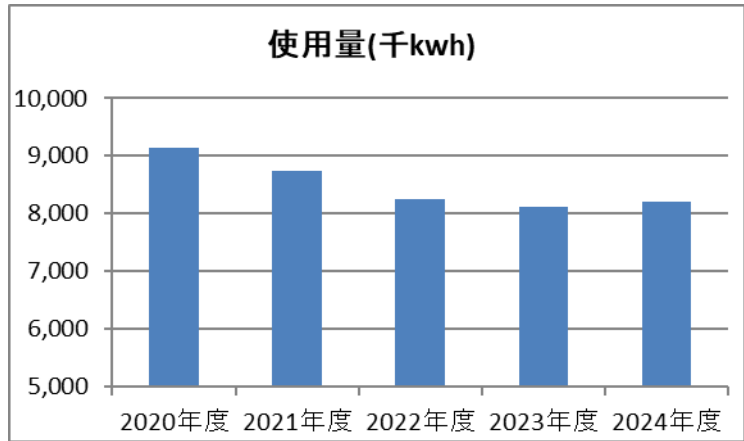
電気使用量の削減に取り組んでいます ~昨年より約1%の増加しました~

2024年度の日本は、観測史上最も気温が高い年となりました。会津でも、35℃を超えるような日がありました。冷凍冷蔵ケースが多いことや空調機の使用によって、夏季の電力使用量は増加しました。

冬の気温では、12月から2月は平年より暖かい日もありましたが、3月は例年より低温となり、電気使用量が増えました。しかしながら、年間では1%の増加に抑制することができました。

抑制できた主な要因としては、ファイナルゲート社によるエネルギー効率最適化として、空調機や冷ケースの室外機の洗浄、冷ケースの設定温度の適正化、庫内ファンの間欠運転、不要な冷却の停止などを行うことで電気使用量の削減が進んだものと考えます。

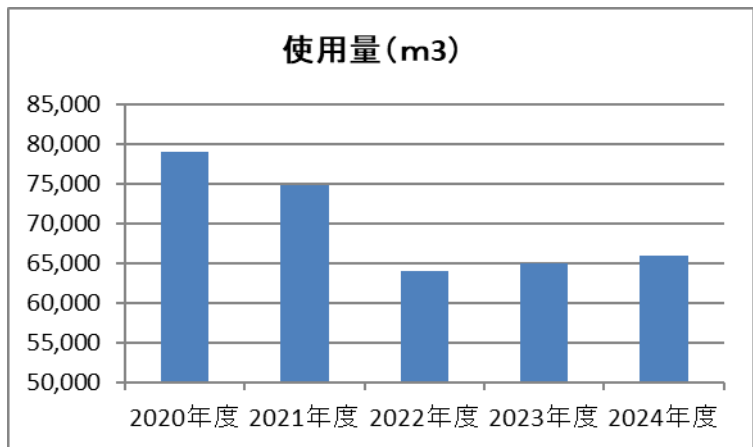
今後は、古くて冷蔵効率が良くない冷凍冷蔵ケースの入れ替えなどを計画的に進めるなど、更に省エネをすすめていきます。



LPガス使用量の削減に取り組んでいます ~昨年より約1%増加しました~

LPガスは、3店舗の空調機での使用と5店舗の厨房で使用しているガス式フライヤー、ひがし店のスロープの凍結防止ヒーターでの使用によるものが殆どを占めます。その中でも、空調機の使用によるものが多くを占めています。

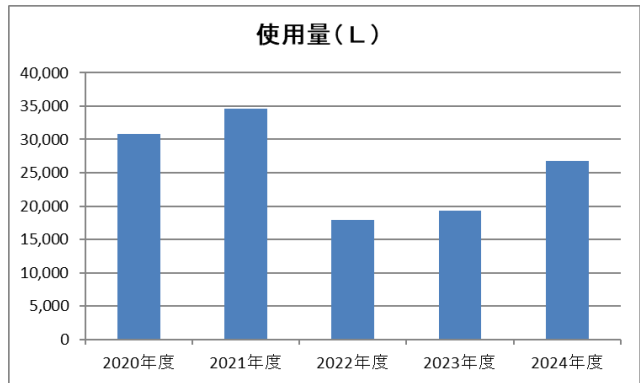
2024年度は、電気同様夏季の高温、3月の低温によりガスヒューポンを使用している3店舗での使用量、2月後半から3月の低温によるひがし店のスロープの凍結防止ボイラーの使用が増えました。



灯油使用量の削減に取り組んでいます ~昨年より約 38%増加しました~

灯油は、暖房用とほんまち店の融雪ボイラーの燃料として使っています。資料量で一番多いのは、ほんまち店の融雪ボイラーで、降雪量や気温によって左右されます。2024年度は、2月3月の降雪量が昨年度よりも多くなり、使用量が増えました。

また、ばんげ店、支部、本部の暖房としての使用量が多く、こちらも2月3月の低温によって増加しています。



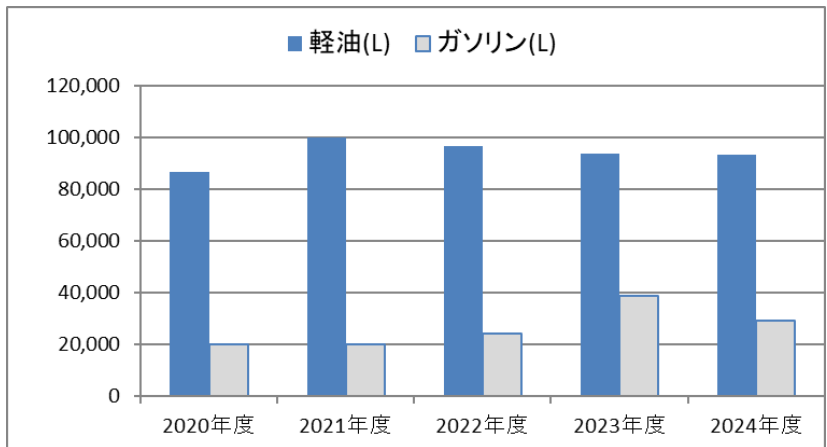
車両燃料使用抑制に取り組んでいます、事業拡大により増加しています ~昨年より軽油使用量は前年並み、ガソリン使用量は約 25%削減しました~

燃料の使用で、一番多いのは宅配事業で使用するトラックの軽油です。また、移動販売車両によるトラックの軽油使用量も増えてきています。

2024年度は、事業拡大はしましたが、軽油の使用量は前年とほぼ同じ使用量でした。今後は、事業拡大によって増えていくものと考えられます。削減は難しいのですが、できるだけ抑制するために、配送ミスが減らすことや、配送コースの見直しなどに取り組んでいきます。他生協などでは、小型EVトラックの導入が増えてきていますが、4WD車両がなく、会津では難しいと考えます。

ガソリンの使用では、営業活動により増減していきま。2024年度は、配送スタッフ不足により仲間づくりタスクの活動がやや減少し、削減となったと考えます。こちらに関しても、今後は増加傾向となります。EV車の導入なども検討が必要ですが、配送で使用するトラックのラインナップに4WD車両がなく、安全面などから難しくなっています。

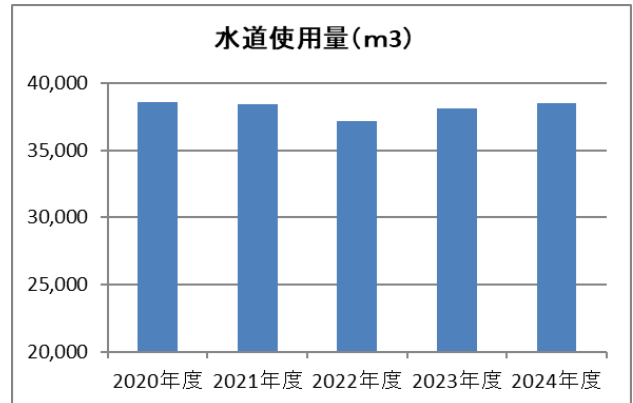
車両燃料は事業を行う上で欠かせませんが、今後も営業実績も上げながら、省エネ運転に心がけることにより、使用抑制に努めていきます。



水道使用量の削減に取り組んでいます ～前年より1%増加しました～

水道使用の殆どが、店舗での商品加工やトイレでの使用です。商品加工やトイレの使用は、削減することが難しいのですが、商品加工を行うバックヤードの蛇口には、節水コマを使用しており、節水に心掛けています。

また、毎月の使用量を点検し、無駄な使用実態がないかの調査、冬期間の水道管の破損などによる水漏れの早期発見に心掛けています。



レジ袋削減に取り組んでいます ～レジ袋の辞退率は89.0%、約411万枚の節約～

レジ袋の辞退率は、約89.1%で、前年度と同じ実績となりました。90%近い辞退率で推移しており、多くの組合員さんに協力いただいています。

また、そのことによる削減効果は約385万枚の削減となり、削減重量は約26t、原油換算で32kl、CO₂換算では約13tもの削減効果となります。

レジ袋は一度使われた後に捨てられる「使い捨て」の代表でもあり。大量に廃棄されることで、海や川など自然環境に流出し、深刻な海洋汚染の原因となります。また、レジ袋の原料は石油なので、削減することは限りある化石資源の節約にもつながります。そして、エコバッグ持参などの行動を通じて、自分の消費行動が環境に与える影響を見直すきっかけになります。

コープあいづの組合員さんは、その趣旨に賛同し、高い持参率となっていますが、無駄なものを使わないスマートな暮らしづくりへのきっかけとしていただき、持参率をさらに高めていきたいと思えます。

辞退率を100%とすることは簡単ではないと思いますが、引き続き店内放送などを通じ、マイバッグの使用を呼び掛けてきます。

持続可能な生産と消費の為に 資源の使用量抑制に取り組んでいます



コープあいづでは事業活動を通して、エネルギーでは原油換算で約1,966kl、プラスチック容器包装を約84t、宅配の商品案内などで345tの紙を使用し、地球温暖化の原因となるCO₂を約1,684t、一般廃棄物を372tなど排出しており、コープあいづが環境に与える影響は少なくありません。

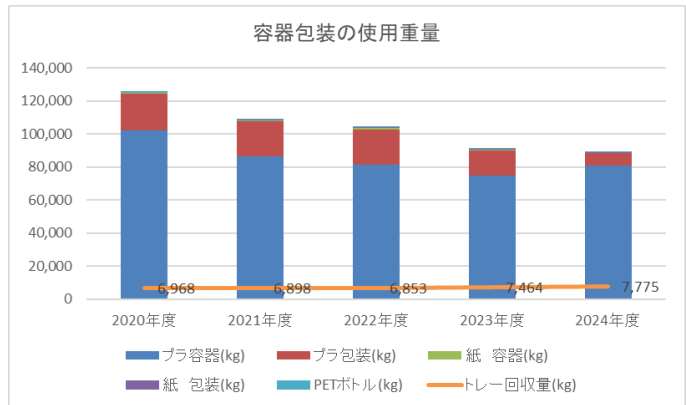
持続可能な社会に向けては、限りある資源を有効活用し、できるだけ使用量の抑制ができるよう取り組んでいく事、循環型社会を作っていく事が必要です。

コープあいづでは、リデュース（Reduce）＝出すごみの総量を減らすこと、リユース（Reuse）＝再利用すること、リサイクル（Recycle）＝再生産に回すこと。この3Rをすすめ、資源の使用量を減らす努力をしています。

容器包装の使用量の抑制に取り組んでいます ～前年より2%削減しました～

生協の店舗では、トレーやラップなどの容器包装を多く使用しています。商品を安全に衛生的に販売するためには、容器包装を使用しないわけにはいきません。

しかし、容器包装のほとんどが化石燃料から作られており、資源の有効活用や温室効果ガス排出量の削減のためには、使用量を少しでも減らすことや、店頭での回収を行う事が必要だと考えています。

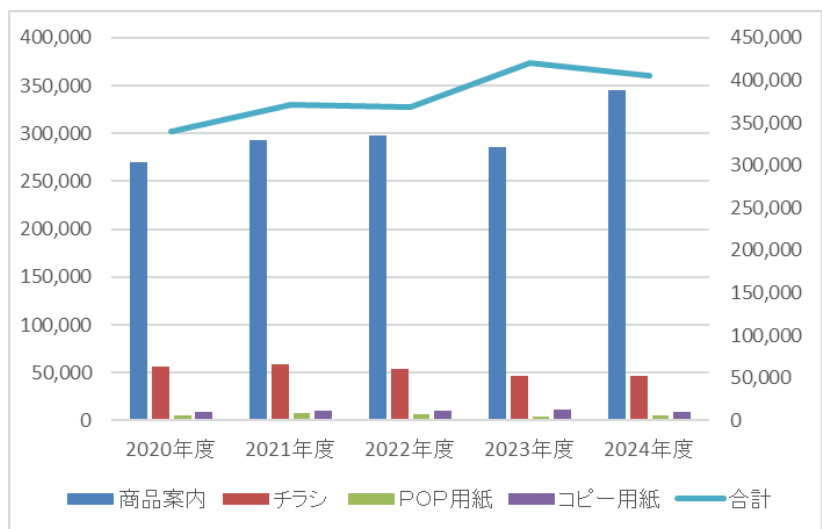


2024年度は、全体で約2%の重量削減ができました。特にプラスチック包装は前年度の半分ほどに減りましたが、プラスチック容器への変更によって約8%の増加となりました。しかしながら、重量の軽いトレーへの変更などを行い、前年度より約2%ほどの削減ができました。

トレー回収は、組合員さんの学習会の実施や、広報誌などでの呼びかけを行い、前年度対比4%の増加となりました。

紙類の使用量の抑制に取り組んでいます ～前年より4%削減しました～

紙類の使用量で、一番多い物は宅配事業で配布している商品案内で、年間約3456tにもなります。組合員拡大や事業拡大によって増加するもので、前年度より約21%増えました。商品案内は事業活動には欠かせない物であり減らすことは難しいのですが、配達時に回収しており、すべてリサイクルに回しています。



次に多い物は新聞折り込みチラシで年間約46tもの紙を使用します。

新聞を取っていない家庭も増えており、年々減少していますが、2024年度は前年度並みとなっています。

それ以外で多いものは、事務所で使用するコピー用紙で年間約 9 t にもなります。2024 年度は、前年度より約 21%削減することができました。幹部会の資料などは、パソコンで見るなど、ペーパーレスに心がけています。会議資料や宅配事業で配布している担当者ニュースやお知らせなどで使用しますが、このような用紙は、事業所にある分別ボックスで保管し、リサイクルに回しています。個人情報や経理情報が載っているものも専用の業者の方に回収頂き、リサイクルに回しています。

また、お店のポップ用紙も多く使用しており、年間約 5 t にもなります。こちらに関しては、2023 年より荒川産業様が回収し古紙回収業者に持ち込みリサイクルしており、「フクメグリ」という名のトイレトーパーに再生され、コープあいつの店舗で販売しています。一度利用してみてください。



リサイクル推進の取り組み

持続可能な循環型社会を目指して、組合員さんと一緒にリサイクル活動の推進を行っています。

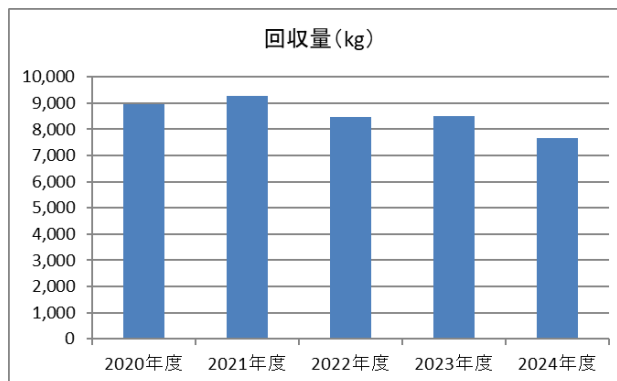
紙パックの回収に取り組んでいます ～7,655kg の回収を行いました～

牛乳パックなどの紙パック回収は、1990 年より組合員さんが主体的に取り組む事から始まり、現在では各店舗のリサイクルボックスや宅配のトラックで回収しています。

組合員さんが回収ボックスに入れていただいた紙パックは、店長などが古紙問屋に持ち込んでいますが、いいでら店や宅配事業で回収された牛乳パックは、会津若松市内にある共同作業所は無償でお渡ししており、共同作業所の運営資金として活用されています。

2024 年度は、7,655kg (前年比約 90%) の牛乳パックを回収しました。昨年度より 845kg 少なくなりました。

2024 年度の回収では、牛乳パック換算で 200,040 枚の回収ができました。これは、コアノンロールにすると 33,340 個にもなります。



食品トレーの回収に取り組んでいます ～7,775kg の回収を行いました～

コープあいづでは、発泡トレーと透明トレーの2種類の回収を行っており、組合員さんにご協力頂いています。

2024年度の回収実績は、発泡トレー4,883kg（前年比約104%）と透明トレー2,892kg（前年比約104%）の回収を行い、合計7,775kg（前年比104%）となりました。

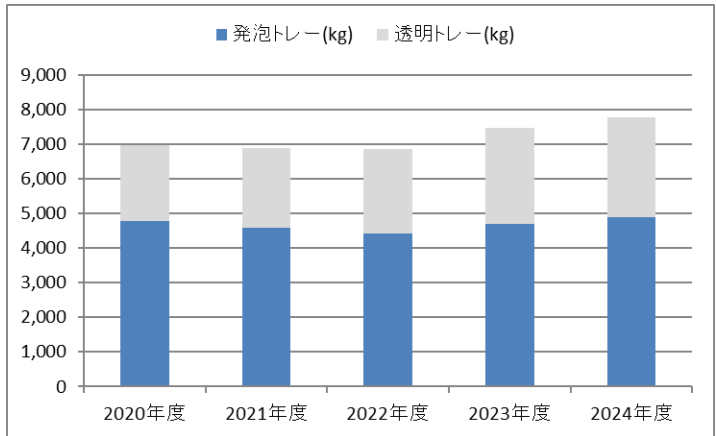
トレーメーカーであり、リサイクルを行っているエフピコ様のご担当者に来ていただき、

組合員さんの学習会を2回実施しました。また、広報紙で、リサイクルの紹介や回収呼びかけを行うなどの取り組みを行い、回収量は2年連続で増えてきています。

回収は、コープあいづ、容器包装問屋さん、メーカーさんが協力し合い、納品するトラックの帰り便で回収を行うことで、回収するトラックの燃料に使用を抑え、お互いに効率のより回収を行っています。

回収された発泡トレーは、主に発泡トレーの原材料としてリサイクルされます。透明トレーは、それぞれの素材に分別され、再生トレーの原材料などに活用されます。

そして、コープあいづでは、回収されたトレーなどでリサイクルされた再生トレーを積極的に使用し、石油資源の節約やCO₂排出量の削減につなげています。



宅配事業で使用するシッパの内袋を回収しています

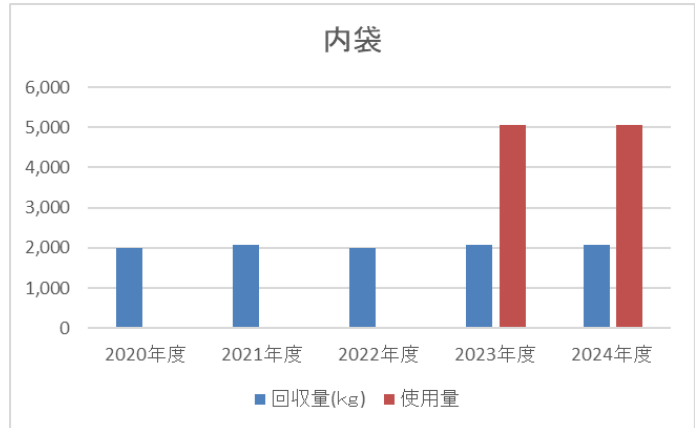
～2,080kg の回収を行いました(回収率 41.2%)～

宅配事業で使用する保冷容器には、商品を保護するために薄いシートを内側に使用しています。1枚一枚は軽いものですが、年間で5,049 kgも使用しています。この材料は石油から作られるプラスチックで、貴重な資源です。

コープあいつでは、回収を行っており、2024年度は2,080kgの回収ができました。

回収された内袋は、会津若松市内のリサイクル工場でRPF (Refuse Paper&Plastic Fuel) 化し、製紙会社や発電所などで使う固形燃料として利用されます。

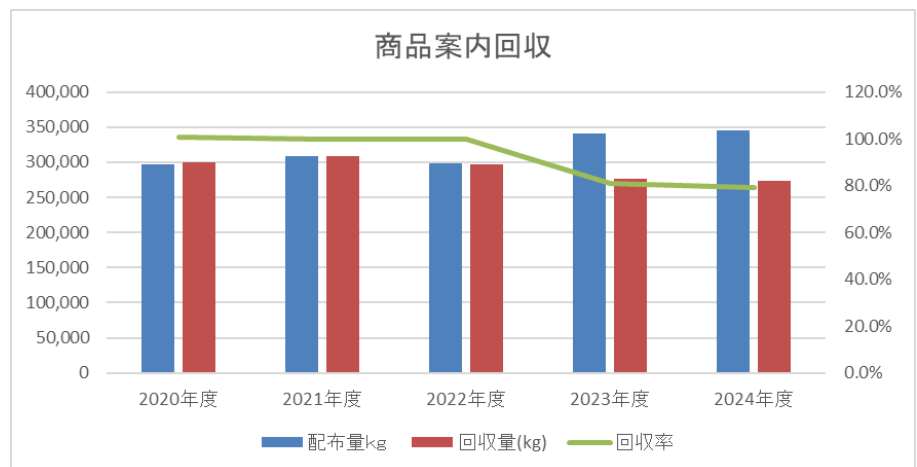
*使用量は、コープ東北で使用している量を、供給按分して試算しています。



商品案内の回収に取り組んでいます ～345,120kg の回収を行いました～

コープあいつにおける紙の使用量で、一番多くを占めるのが宅配事業で組合員に配布する商品案内(カタログ)となります。

2024年度は345,120kg(前年比約101%)の商品案内(チラシやニュースなどを含む)を配布し、272,810kg(前年比約99%)の回収を行い、リサイクルを行いました。



リサイクル率は約79%となり、配布した紙のほとんどがリサイクルされています。

ただし、カタログでは、食品だけでなく雑貨や日用品、衣料品など、幅広い品ぞろえをするため、配布重量が増えてしまいます。今後は、「宅配で使用する商品案内の配布重量を、2022年度対比で22%削減します。」という目標を設定し、不要なカタログはDXなどを活用して配布を中止したりすることも含め、削減に心がけます。

*回収率が100%を超えている年がありますが、担当者ニュースの発行など、一部重量把握ができていないためです。

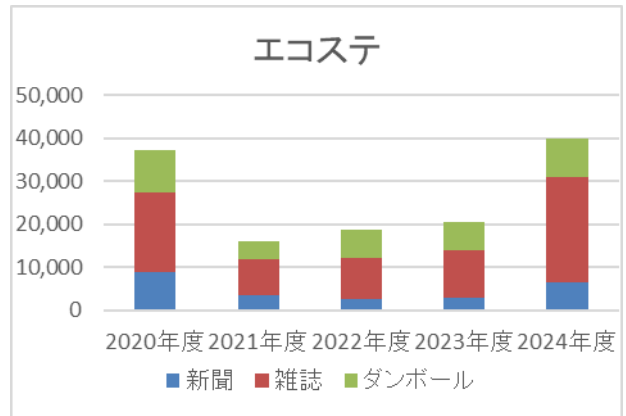
エコ・ステ(古紙の回収ステーション) ~39,948kg の回収を行いました~

2011 年度から、ぷらざ店の駐車場で始まった「エコ・ステ」は、たいへん多くの組合員さんにご利用いただいています。

冬期間は雪の為、休止していますが、2024 年度は雑誌 24,599kg (前年比約 220%)、新聞 6,475kg (前年比約 230%)、ダンボール 8,874kg (前年比約 136%)、合計で 39,948kg (前年比 194%) の回収となりました。

2021 年度より、ポイント制がなくなったことから回収量が減りましたが、年々回収量が増えており、2024 年度はほぼ 2 倍の回収実績となりました。

2025 年 4 月より、ひがし店にポイント制の「古紙回収ステーション」を設置し、ポイント付与を開始しました。たいへん好評を得ていますので、今後は他の店舗での設置も検討していきます。



廃棄物削減の取り組み

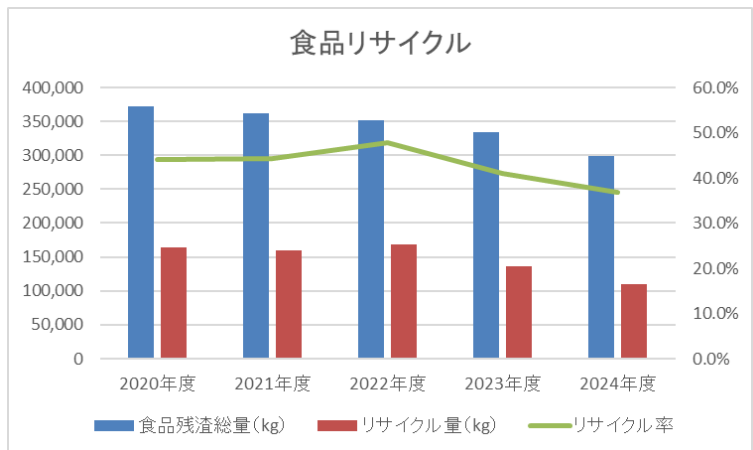


コープあいづから排出される廃棄物で、一番重量が多い物は事業系一般廃棄物で 372,079kg (前年比約 95%) となっています。中でも、食品廃棄物は 110,120kg (前年比約 90%) と多くを占めています。

食品リサイクル ~リサイクル率は 36.8%となっています~

食品リサイクル法では、食品関連事業者による事業系食品廃棄物等の発生抑制が求められており、2024 年度 (令和 6 年度) までに業種全体、食品小売業は 60% を達成するよう目標が設定されています。

コープあいづでもその目標を達成できるよう、各店舗でリサイクル率の目標をもって取り組んでいますが、2024 年度のリサイクル率は 36.8% となっており、前年より 4.2% 低くなってしまいました。



加工時の残渣に関しては分別ができていますが、日切れ品や劣化した青果物などの分別が不十分となっています。人手不足で十分にできていない事態はありますが、多くの廃棄物を排出していることから、可能なかぎりリサイクルを行い、廃棄にならないよう「コープあいづの環境・サステナビリティ政策」にも位置づけ、取り組みを推進していきます。

<コープあいづで行っている食品残渣のリサイクル>

店舗から排出され食品残さは、会津若松市の荒川産業のリサイクル工場で堆肥化され、店舗で販売している土壌改良剤「エコまる」になって、組合員さんの家庭菜園などに利用されており、リサイクルの輪ができています。

できるだけ多くの方にご利用いただきたいと思います。



廃食油のリサイクル ～7,561 kg のリサイクルができました～

店舗の総菜部門などでは、毎日大量の食用油を使用しています。コープあいづでは、使い終わった廃食油はすべてリサイクルしています。

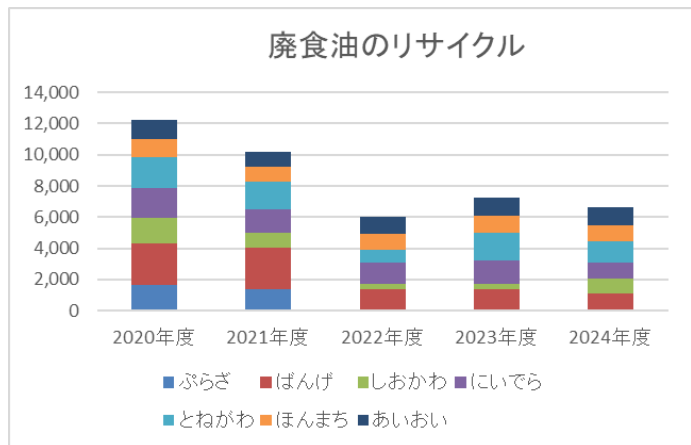
ひがし店・ぷらざ店・しおかわ店から排出された廃食油は、山形市にある「あやめサービス」で回収され、飼料として活用されています。

にいでら店・ほんまち店・あいおい店・とねがわ店・ばんげ店は、会津美里町にある

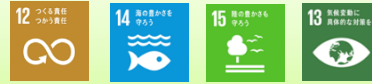
「ピーターパン共同作業所」で回収いただき、バイオディーゼル燃料（BDF）としてリサイクルされ、会津若松市内で走る市内循環バスの燃料等に活用されています。

2024年度は、ピーターパン共同作業所で 5,725 kg（前年度比約 83%）、あやめサービスで 1,836 kg（前年度比約 80%）の廃食油のリサイクルができました。

2022年度より回収量が少なくなっていますが、油のろ過装置の性能向上によって、交換頻度が少なくなっているからです。



環境に配慮した商品の利用普及



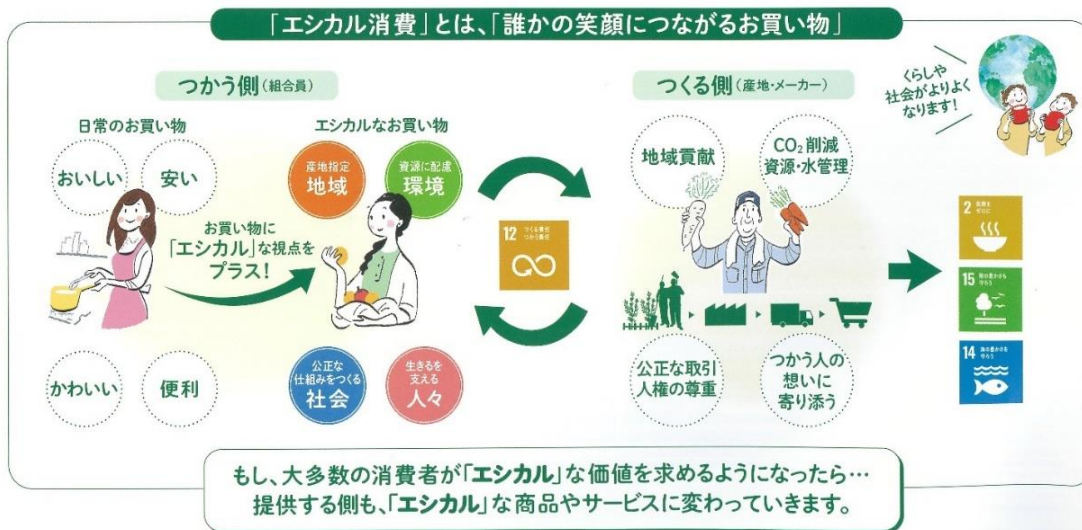
コープあいづでは、多くの商品を組合員に提供しています。その商品は、原材料から加工、流通、販売、消費、廃棄のところで、様々な環境影響を与えています。「食べものを廃棄する」「商品を必要以上に作る」「資源を乱獲する」など、ムダな消費行動はやがて環境問題・社会問題を引き起こすきっかけとなります。

そのため、あらゆる問題に配慮したエシカル消費を行うことは、持続可能な地球環境の維持につながります。「エシカル消費に参加する」ことは、SDGsの目標達成に貢献する事にもなります。

エシカル消費、誰かの笑顔につながるお買い物



生協では、エシカル消費を「誰かの笑顔につながるお買い物」と表現し、「地域」「環境」「社会」「人々」の4つの視点で進めています。



エシカル消費はSDGsの17の目標を実現するための重要な手段の一つなのです。

日本生協連発行「コープのエシカル」より抜粋

<海の資源を守る>



世界の水産資源の現状は、約35%が過剰利用、約60%がこれ以上漁獲を増やせない状態です。今後、水産物需要は、人口の増加、健康志向などにより増加すると予測されており、水産資源の減少が加速する可能性があります。



生協では、持続可能な漁業を推奨する団体が認証した海のエコラベルと言われる「MSC認証」や「ASC認証」の商品の利用普及を行っています。



<森の資源を守る>

森は木材や食糧、水や空気など生物が生きるために欠かせない多くのものを恵んでくれています。森を守り続けるためにできることを。

・レインフォレスト・アライアンス認証

レインフォレスト・アライアンス認証は、より持続可能な農業に取り組む認証農園産の原料やその製品であることを意味します。人と自然にとって、よりよい未来を推進する方法で栽培されたことを意味するマークです。レインフォレスト・アライアンス認証の商品を利用することで、それが結果的に収量と収入の増加につながり、農家、家族、地域社会を支えることとなります。



・RSPO認証のパーム油

パーム油は熱帯で育つアブラヤシという植物から採れる油で、日本で使われる植物油の1/4を占めるといわれています。マーガリンや即席麺、チョコレートなどの食品や石けん、洗剤、化粧品など幅広く利用されています。パーム油が採れるアブラヤシ農園を広げるために、森を焼いたり木を伐採するケースがあります。それにより、野生生物の減少、温室効果ガスの排出や森を利用する人々との争いが起きています。また、強制労働や児童労働などの問題も発生しています。これらの問題を解決するために発足されたのがRSPOです。



<FSC認証商品の拡大>



FSC認証は、適切に管理された木材と責任ある調達をされた製品を確実に消費者に届けることで、森林資源の保全を消費者が支える仕組みです。

2012年紙製品からスタートし、紙パック、そして段ボールや紙容器など対象をパッケージまで広げ認証商品を大きく拡大しています。

FSC認証段ボールは、商品数で1,400品以上、使用枚数ベースで60%程度になっています。



<プラスチックの環境対応>

私たちの暮らしと社会、経済に深く浸透した便利な素材、プラスチック。コープ商品ではプラスチック容器重量の削減や再生プラスチック・植物由来プラスチックへの切り替えなど、できることから取り組みを始めています。

・「レトルトビーフカレー」や「骨取りさばの味噌煮」などの包材の再生プラスチックの一部に使用しています。



<寄付金付き商品：ふだんのお買物で身近なエシカル消費>

コープ商品には、対象商品を買うと売上金の一部が寄付される「寄付金付き商品」の取り組みがあります。商品を選ぶ際に「おいしい、安い、手軽…」にプラスして、「誰かの笑顔」を思い浮かべて買い物をしてみませんか？

◇CO・OP×レッドカップキャンペーン



飢餓に苦しむ子どもたちに、学校給食を届けるため、国連WFP協会を通じて寄付をするキャンペーンです。

コープスナードルやカップスープなどの対象商品をキャンペーン期間中にご購入いただくと、1品につき1円を国連WFPに寄付され、学校給食を届けるために使われます。

2024年度のキャンペーンでは、4,015,975円の寄付が集まり、国連WFP協会に寄付することができました。



◇コアノンスマイルスクールプロジェクト



「スマイルグリーンプロジェクト」は、森林伐採と開発にともない、大きく森が消失しているブラジルの大西洋沿岸部のアトランティックフォレストに植林などを行うことで、生物多様性の保護に貢献し、人と森が共存できる土地利用を推進する取り組みです。



「CO・OP コアノンロール」シリーズを1パックご購入いただくごとに1円がユニセフを通じて学校づくりなど、楽しく学べる環境づくりに役立てられます。

2024年度、全国の生協による募金総額は10,253,407円でした。



◇障害者ノルディックスキー応援キャンペーン



COOP応援食クッキー1品につき1円を特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟ノルディックスキーチームの次世代を担うジュニアチームに寄付しています。

2023年度、全国の生協による募金総額は435,782円でした。*2024年度の募金は集計中。

◇ピンクリボン運動



コープの化粧品やブラジャー1点につき1円を、認定NPO法人J.POSH（日本乳がんピンクリボン運動）の「ピンクリボン運動」に寄付しています。

2024年度全国の生協での寄付金総額は、コープ化粧品 102万6,786円、くらしと生協 46万8,216円でした。

◇ブラックタイガー養殖業改善協力金



「エビ養殖業改善プログラム」に対し、コープのブラックタイガーを使用した商品の購入を通じて寄付する取り組みです。

2023年度、全国の生協での寄付金総額は6,156,384円でした。*2024年度の募金は集計中。



<森のエシカル：森を守り続けるために>

森林破壊、気候変動、生物多様性

ほぼ100年の間に人類は森林を急速に開発し、世界中で多くの森が失われてしまいました。森林を保全しながら、森からの恵みを持続可能な形で利用できる社会を目指すことが



大切です。このことは人間同様に森からの恵みを得ている生物たちの多様性を守り、ひいては地球温暖化などによる気候変動を抑えることにもつながっています。

森を守るためには、森林に手を加え、植林や自然林の保護などを行い、適切な管理が必要です。貴重な紙資源を再利用する事が重要です。適切に管理された木材や再生紙で作られた製品を選ぶことが必要です。

<レインフォレスト・アライアンス認証：森林の自然を守り働く人を応援>

レインフォレスト・アライアンス認証は、より持続可能な農業に取り組む認証農園産の原料やその製品であることを意味します。人と自然にとって、よりよい未来を推進する方法で栽培されたことを意味するマークです。



レインフォレスト・アライアンス認証の商品を利用することで、それが結果的に収量と収入の増加につながり、農家、家族、地域社会を支えることとなります。

<RSPO認証のパーム油：私たちの生活を支えるパーム油の持続可能な調達を応援>

パーム油は熱帯で育つアブラヤシという植物から採れる油で、日本で使われる植物油の1/4を占めるといわれています。マーガリンや即席麺、チョコレートなどの食品や石けん、洗剤、化粧品など幅広く利用されています。

パーム油が採れるアブラヤシ農園を広げるために、森を焼いたり木を伐採するケースがあります。それにより、野生生物の減少、温室効果ガスの排出や森を利用する人々との争いが起きています。また、強制労働や児童労働などの問題も発生しています。これらの問題を解決するために発足されたのがRSPOです。

Coop商品では、洗剤ではセフターENERGY やセフターEなど、食品にも多く使われています。また、麺フライ油、揚げ油にRSPO認証パーム油を使用しています。(COOP ナードルの揚げ油、マーガリンの油等)



※こちらもご覧になってください。



世界から飢餓や貧困をなくし、 子どもたちを支援する活動



「誰一人取り残さない世界」をめざして、世界が抱える飢餓や貧困問題についての理解を深め、助け合いの精神で、ユニセフ募金などに取り組み、世界の子どもたちを支援します。
また、「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、子ども食堂やフードバンク・フードドライブなどの取り組みを進めます。

フードバンクやフードドライブに取り組んでいます ～2,366kgの食品を提供できました～



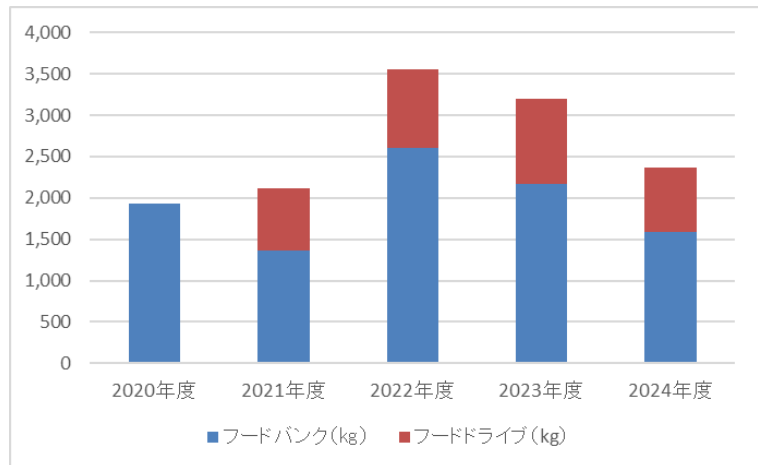
1. コープ東北フードバンク

コープあいづでは、コープ東北が設立した「コープフードバンク」に参加し、会津地域の社会福祉協議会や子ども食堂などで活用していただいています。



コープフードバンクでは、流通に出すことができない食品を企業などから寄贈していただき、必要としている施設や団体、困窮世帯などに無償で提供する活動を行っています。このことで、食品ロスを減らす事にもつながっています。

2024年度の提供実績はのべ14回、1,634ケース、1,590kgの食品を会津地域の社会福祉協議会様に提供しました。



2. フードドライブ

店舗で行う「フードドライブ」は、年3回実施しました。今年度も、社会福祉協議会様やボランティアの方と一緒に取り組むことができました。

提供された商品は、4,429点。重量では、約776kgとなりました。商品の価格が高くなってきていることや、会津の景気が悪くなっており、提供者が少なくなってきています。

宅配でも年2回取り組んでおり、提供された商品は1,816ケース、重量では約571kgの提供でした。



フードドライブで寄せられた商品は、会津地域の社会福祉協議会様にお届けして、必要な方にお届け

されています。

商品の価格が高くなってきており、寄付いただける商品は年々減ってきていますが、必要とされる方の数は増えており、フードバンクサポーター通信の発行や学習会の実施などの取り組みを行い、この取り組みを理解いただける方を増やしていこうと思います。



コープあいづのフードドライブは、お店や宅配で購入していただいた商品を、その場で寄付することとしています。通常のフードドライブは、ご家庭などで過剰となった商品を寄付するものですが、食品の安全確保と賞味期限が長い商品をお届けするために、購入頂いた商品をお渡ししています。一旦家庭に入ったものは、その保管状況が分からなかったり、異物混入のリスクを避けるためにこのような形で実施しています。社会福祉協議会様からは、賞味期限が長いものが多く、必要な時に活用できてたいへん助かるとの声を頂いています。

誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくり



私たちは、誰一人取り残さず、安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加する為、自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売など、生協の事業や活動を活用し、地域における役割を果たしていきます。

行政や地域の方々と一緒にすすめる環境保全活動



行政の会議等に委員として出席しています

- ・ 会津若松市「会津若松市3R運動推進会議」の構成団体として参加。
- ・ 猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会の委員として参加。また、環境委員会の皆さんが、猪苗代湖清掃活動に参加。
- ・ 喜多方市環境にやさしい農業推進協議会に、委員として参加。
- ・ その他、農業関係や食に関わる委員会や協議会などに、委員として参加。

「ふくしまゼロカーボン宣言事業」の取り組みに参加しています



コープあいづでは、福島県が行っている「ふくしまゼロカーボン宣言事業（事業所版）」に参加し、2050年までの脱炭素社会の実現に向けて、「ゼロカーボン」を目指し取り組むことを宣言し、取り組みを進めています。

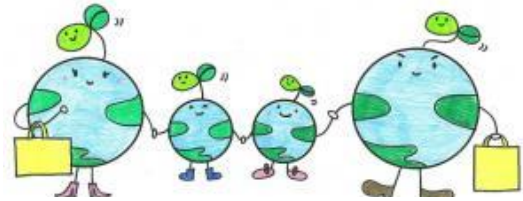
今後も、この事業に参加し、福島県が目指す「カーボンニュートラル」実現に向けて努力をしていきます。



福島県地球環境保全キャラクター『エコたん』

福島県が推進している「ストップ・ザ・レジ袋実施店」に登録しています

福島県では、環境に配慮した持続可能な社会の実現に向け、この「レジ袋無料配布中止」の取組みをさらに促進していくため、地球にやさしい“ふくしま”「ストップ・ザ・レジ袋実施店」参加登録制度を実施しており、コープあいづの全店舗が参加しています。



福島県地球環境保全キャラクター『エコたん』

福島県「食べ残しゼロ協力店・事業所」に参加しています



福島県が進める「もったいない！食べ残しゼロ推進運動」に協力する食品小売店として登録し、「閉店間際等の値引き販売」「ばら売り、量り売り、少量パックによる販売」「賞味期限・消費期限が近い商品の値引き販売」「野菜や魚、肉など、少量を希望される方には、カット販売のサービス、少量パックの提供などにも応じる」「業界の1/3ルールに該当しそうな商品も仕入れ、低価格で提供を行っている」などの取り組みを行っています。



組合員さんと一緒にすすめる環境保全活動



コープあいづの分野別委員会の一つとして「環境委員会」があり、組合員さんが自主的な活動として、エコ料理教室、大気測定（NO₂）、清掃活動などのボランティア活動、会津若松市で開催されている「環境フェスティバル」への参加など、幅広い活動に取り組んでいます。



環境フェスティバル in あいづ

会津若松市で開催されている環境フェスティバルは、新型コロナウイルス感染症の位置づけが変更となり、通常開催となりました。

環境委員会では、実行委員会にも所属し、ブース参加をしています。

展示ブースでは環境委員会の取り組み内容パネルの展示、「エコチャレンジシート」の記入お願い、「新聞で作るエコバッグ」を作るコーナー、コープのエシカル商品紹介コーナーを設置しました。



コープあいづエコライフチャレンジ

家庭での省エネを進めるために、環境委員会で「エコチャレンジシート」を作成し、取り組みを進めました。

2024年度は、会津若松市環境フェスティバルや店頭で参加を呼びかけるなどして、1,224名分の回収ができました。

施設見学会：沼の平第三最終処分場の見学

環境委員会では、委員会のメンバーの学習のための施設見学を行っています。

2024年度は、磐梯町にある会津若松地方広域市町村圏整備組合の「沼平第三最終処分場」の見学を行いました。

ここは、管理型の最終処分場ですが、排水などの検査を行い、環境汚染がないようにされているとことでした。以前見学した最終処分場は、いっぱいとなって令和4年にこの最終処分場が竣工しましたが、15年ほど使えるそうです。少しでも長く使えるよう、ゴミの排出量を減らしていくことが必要だと感じました。



ペットボトルのキャップの回収を行っています 495kg

環境委員会では、限りある資源を大切にすることを目的に、各所（にいでら店・喜多方燃料、本部などの回収BOX）や各店の内部職員が集めたペットボトルキャップを回収しています。

回収したペットボトルのキャップは、荒川産業株式会社「アマルク会津一ノ堰」へ運び、「特定非営利活動法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会」を通じて世界の子どもたちにワクチンを贈っています。

2024年度は、全体で約495kgのキャップが集まりました。ペットボトルキャップ3kg（約1,300個）でポリオワクチン1人分と計算されますので今回は約165人分になりました。



大気測定(NO₂)に取り組んでいます

環境委員会では、大気汚染の原因となる、NO₂の調査に取り組んでいます。

2024年度の調査は、3回実施しました。



魔法のゴミ箱キエーロ学習会

環境委員会では、「生ごみが消える！魔法のごみ箱（キエーロ）の使い方を学ぼう」の学習会を開催し、生ごみが消える仕組みやキエーロの使い方について学びました。



エフピコさんのトレー容器リサイクル学習会

環境委員会では、トレー容器の製造やリサイクルについて、生協にトレー容器を納品しているエフピコさんから話を聞き、お店から回収されたトレーが、工場ではリサイクルされて、お店に納品されるまでの工程について学びました。



サステナブルな取り組み



子育てを応援する取り組み

子育て広場「ココたん」

子育て広場「ココたん」は、子育て中のお母さんが気軽に集まれる居場所で、孤立しがちなお母さんたちのネットワーク作りをお手伝いする場として開催し、対象は、0～3歳（未就学児）とそのママさんです。

2024年度は4回実施され、これまでは会津若松市のいであら店での開催だけでしたが2024年度は、喜多方市のひがし店とぷらざ店でも実施しました。折り紙で鯉のぼり作りやうちわのデコレーション、紙皿でつくるハロウィン仕様の小物バッグ作り

「ココたん」は、子育て中のママさんの不安の軽減や、ネットワークづくりに貢献しています。今後も、子育て応援として活動を広げていきます。



すくすくばこ



福島県内の新生児誕生をお祝いし、その記念として思い出をしまっておける「すくすくばこ」を無料でお届けしています。箱の中には、趣旨に賛同した協賛企業様から頂いた育児グッズなどが入っています。

2024年度は、417件もの問い合わせがあり、「すくすくばこ」をお届けしました。会津のお子さんが、すくすくと成長していただくことを願っています。

「すくすくばこ」の案内は、行政の窓口などにもあり、コープあいつの店舗などでも案内しています。

お申し込みは、以下より〈すくすくばこ お申し込み〉ボタンから、応募規約・応募フォームへおすすみください。

<https://fukushima.sukusukubako.jp/>



応募の条件

- ・下記の条件をすべて満たすご家庭へお届けします。
- 1. 0歳児の赤ちゃんがいるご家庭
- 2. 赤ちゃんが福島県内に在住のご家庭



こそだてパスポート「Megoca」

「Megoca」は、14歳以下のお子さんをお持ちのパパさん・ママさんを応援する新しいサービスです。毎週土曜日のお買い物が、ご利用金額の5%OFFでご利用いただけます。※一部対象外商品あり（酒、たばこ、商品券、印紙、切手、宅急便料金など）

ご利用にあたって、コープカード・母子手帳またはお子様の健康保険証かマイナンバーカードなどをご提示がいただき、登録していただくことが必要です。

詳しくは、各店舗のサービスカウンターにてお問い合わせください。



安心してらせる地域づくり

各自治体と協力して行う「地域見守りの取り組み」

地域や社会から孤立した状態で高齢者が死亡する「孤立（独）死」が社会的問題となっています。また、高齢者以外にも地域住民が安心して生活が継続できるようにしなければなりません。

コープあいづでは、会津地域で14市町村と「地域見守り」に関する協定を結んでいます。県や各自治体などと連携しながら「地域のみんなで見守る体制づくり」に協力しています。

取り組みとしては、配達担当者が組合員宅を訪問した際に、いつもと違う気になる事や異変に気付いた場合は、所属長（または代務者）に連絡し、緊急事態の際は、担当者が直接警察や消防、救急を呼ぶ場合もあります。

2024年度は7件の事例がありました。残念な事例もありましたが、無事が確認できたり、民生委員さんと市のご担当者がかけてつけて大事に至らなかった事例もあり、ご家族や区長さんから感謝のお言葉をいただくこともありました。

未締結市町村が3市町村ありますので、全世帯と締結できるようにしていきたいと思えます。

□締結市町村

会津若松市、喜多方市、磐梯町、只見町、会津美里町、下郷町、猪苗代町、西会津町、南会津町、三島町、金山町、湯川村、檜枝岐村、北塩原村、（大熊町）

□見守りの事例

普段お会いできる組合員宅にお伺いした際にチャイムを押しても反応がなく、声をかけると中から微かに声が聞こえました。該当組合員は入退院を繰り返しており心配になり玄関を開けようとしても施錠



車に貼ってあるステッカー

されている状態でした。中の状況が解らないためセンターへ入電後、近所の方に助けを求めましたが対応できず、その後、娘さんと民生委員、市の職員が駆け付け解錠し玄関を開けると組合員は衰弱した状態で倒れていました。

宅配センターの安全運転意識を高めるために

コープあいづでは、安全意識を高めるために優良ドライバーが乗車する「チャンピオンカー」を2024年度5月より稼働させています。

チャンピオンカーは、ドライブレコーダー・テレマティクスサービス「F-ドラ」の月度判定基準から1位に輝いた優良ドライバー「セーフティーチャンピオン」が乗車し、地域の安全パトロールや一般道でのペースカーの役割を担う目的で安全運転を意識した走行をします。

安全意識を高める施策として安全運転報奨制度が確立され、より一層の安全意識の向上につながっています。引き続き、地域への「安全・安心」の基本として意識の維持向上につなげていきます。



社会福祉の向上

こ〜ぷ暮らしのたすけあいの会

「こ〜ぷ暮らしのたすけあいの会」の活動は、組合員相互の“たすけあい”で、有償ボランティアです。行政サービスでは手が届かない、家事手伝いや掃除、草むしりなどのちょっとしたお互いの助け合いの活動です。

2024年度の会員数は79名となっています。助け合いの活動だけではなく、「会員のつどい」を会津自然の家で開催し、モルックやボッチャなども行いました。

また、「こ〜ぷ暮らしのたすけあいの会」活動内容を紹介し、生活のちょっとしたお手伝いが必要な方や援助して下さる会員さんを募集するために、「お茶っこ会」をばんげ店ととねがわ店で開催しました。

2024年度の活動時間は48.5h(前年比約54%)となりました。活動は増えています。課題としては、援助会員を増やすことです。



福祉委員会

各地域にある福祉委員会では、ボランティア活動やふれあい食事会などを通しての交流や、児童館などへの紙芝居訪問活動や、伝承遊びなどのレクリエーションを通じて、子育てや地域福祉の向上のための活動を行っています。

若松福祉委員会では、児童クラブに訪問し、子どもたちと一緒に折り紙や工作を行ったり、紙芝居などを行いました。

喜多方福祉委員会では、ふれあいの家（就労継続支援B型）でのカレーづくり交流を毎年行っており、30年以上の交流を行っています。

坂下福祉委員会では、クリスマスリースづくりなどが行われました。



誰も取り残さないお買物

移動販売

会津地域では、高齢化・過疎化が進んでおり、高齢で一人暮らしの方、交通手段がなくて買い物に困っている組合員さんが多くいらっしゃいます。

コープあいづでは、宅配事業を行っており、その一助となっていますが、「お店のように商品を見て買い物したい」という声や、宅配事業にはない「お刺身」「お総菜」などが欲しいといった要望も高く、冷蔵設備もある移動販売車を利用して、移動販売を行っています。

現在、2t車クラスの車両2台に加え、軽自動車2台の合計4台の移動販売車を利用し、週に24コースの移動販売を稼働させています。移動販売は、商品を販売するだけでなく、見守りや交流の場としても有意義な場となっています。

当初は過疎地域からの要望が多く、それに応えていましたが、最近は市内の団地などからのご要望も多くなってきており、買い物に不便な地域が増えてきています。

コープあいづでは、「誰も取り残されない買い物のかたち」を目指していきます。



支えあう活動

ユニセフ募金:764,846 円

コープあいづでは、世界のすべての子どもの命と権利を守るため、ユニセフ募金を行っています。

2014年度からは、東ティモールの指定募金に取り組んでいます。また、年末にはハンド・イン・ハンド募金に、会津医療生協の方と一緒に取り組んでいます。

- ・ 2024年度のユニセフ募金額：764,846円
 - 一般募金：713,786円
(うち、OCR募金 383,200円)
 - ユニセフバザー:2,346円 *ばんげ店感謝祭で実施。
 - ハンド・イン・ハンド募金活動: 48,714円 *イオンタウンとねがわで実施



能登半島地震支援募金:1,136,107 円、能登半島豪雨支援募金:407,162 円

2024年1月に発生した能登半島地震、2024年9月の能登半島大雨災害で被災された皆さまならびにご家族の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

能登半島地震支援募金では、店舗と宅配事業のOCR募金に取り組み、総額1,136,107円（店舗募金箱874,407円、宅配OCR募金261,700円）となりました。

能登半島豪雨支援募金では、店舗と宅配事業のOCR募金に加え、ぷらざ店周年祭バザーの売り上げを募金とし、総額407,162円（店舗募金260,502円、宅配OCR募金112,300円、ぷらざ店周年祭バザー34,360円）となりました。

この募金は日本生活協同組合連合会を通じ、義援金として被災者へ届けられる他、支援金として被災地支援のための活動等に活用されます。

また、会津コイン利用キャンペーン中の決算額1%にあたる76,296円を義援金として石川県災害義援金窓口に寄付しました。

<支援活動に参加しました>

能登半島地震では甚大な被害を引き起こし、たいへんな暮らしをされている方が多くおいでした。

このことを受け、全国の生協から被災生協および被災地支援に駆けつけて活動をしました。

コープあいづからは、宅配センターの小林雅一次長（現在センター長）が3月24日（日）から4月5日（金）までの2週間、コープいしかわ様の支援に入られ、全国の仲間と一緒に活動してきました。

山形県大雨災害支援募金: 177, 871 円

コープあいづでは、8月8日から10月1日までの期間、山形県の大雨災害の緊急募金活動に取り組みました。店頭募金箱による募金の総額177,871円が寄せられ、山形生活協同組合共立社の渡邊理事長より、山形県知事に手渡されました。



EMS（環境マネジメントシステム）

コープあいづでは、これまで行ってきたEMSを、内部統制を含めた形でのマネジメントシステムに発展させて取り組んでいます。

マネジメントシステムは、仕事に役立つことを目的としています。仕事の目標を確実に達成していくためにPDCAサイクルを活用し、組織の目標達成力を強めています。

また、環境負荷の低減は、経営にも役立ちます。省エネによって経費を抑えることができます。その他、車両燃料。ガス、水道なども省エネを確実に行的っていくために、EMSによる運用管理として確実に実施できるようにしています。

コンプライアンス意識を高め、確実な遵法ができるよう、EMSを活用しています。法律違反を犯してしまわないよう、様々なリスクを評価して取り組むこともマネジメントシステムであり、それを監視していく事は内部統制でもあるとして位置付けています。

目標の達成状況

【方針1関連】

部署	目的目標	目標	実績	結果
全体	事業から排出するCO2の排出量を前年より2%以上削減する（1,361t以下にする。（前年比-1%）	1,361t	790t	○
店舗	人時生産性を店舗全体で2,753円にする。	2,424円	2,398円	×

【方針2関連】

部署	目的目標	目標	実績	結果
管理本部	長時間労働を削減する。 特別条項適用回数限度6回以下、年間延べ回数100回未満（前年114回）	100回	72回	○

	労災の発生を年間 10 件以下にする (2023 年度 19 件)	10 件	13 件	×
DC燃料	配送。品揃えミスを 0 (ゼロ) にする。	0 件	5 件	×
共同購入	宅配事業の利用者人数を 514,840 人以上にする。	526,532 人	522,183 人	×

【方針 3 関連】

部署	目的目標	目 標	実 績	結果
店舗	廃棄ロスの削減。店舗全体の廃棄ロス率を -0.60%以下に抑制する。 ※商品部も同じ目標を設定して取り組む。	-0.60%	-0.69%	×
	食品リサイクル率を 60%以上にする。	60.0%	38.3%	×

【方針 4 関連】

部署	目的目標	目 標	実 績	結果
商品部	店舗全体年度累計の GPR 目標を達成する。			×

【方針 5 関連】

部署	目的目標	目 標	実 績	結果
組活	一日エコライフの参加者を 1,200 名以上にする。	1,200 人	1,224 人	○

環境関連法の遵守状況

主な法規	対象となる施設及び要求事項	順守状況 (2025 年 3 月調査)
消防法	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の防火対象物の定期点検報告。 防火管理者の設置。 灯油・軽油・ガソリン等の危険物貯蔵及び管理者。 	<ul style="list-style-type: none"> 危険物貯蔵及び取り扱い管理については問題なし。 防火管理者、危険物保安監督者の設置を確認。 施設の防火対策は、消防署の立ち合い検査を受け、問題がない事を確認。
浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> 年 1 回指定検査機関による法定検査。(第 11 条) 法定に基づく保守点検及び清掃。 	<ul style="list-style-type: none"> 点検及び清掃の実施。 2024 年度の法定点検はすべて終了。法定基準を超えるものはない。 本部は単独式浄化槽なので改善が必要。
下水道法	<ul style="list-style-type: none"> 排水水質基準の順守。 排水事故時緊急措置及び届出。 	<ul style="list-style-type: none"> 水質基準で問題なし。 排水事故等は起きていない。
水質汚濁防止法	<ul style="list-style-type: none"> 河川等への油流失による汚染 	<ul style="list-style-type: none"> 事故の発生なし
騒音・振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> 指定区域内の特定施設の設置の届出。(冷凍機及び空気圧縮機の出力 7.5kw 以上の設備) 	<ul style="list-style-type: none"> 届け出の維持確認済。 騒音振動の苦情発生なし。

<p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一般廃棄物、産業廃棄物の委託業者との契約。 ・廃棄物の保管、管理。マニフェストの発行と管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニフェスト管理で、引き続き電子マニフェスト化を進めた。 ・定期的な処分に関しては全て電子化。一部紙での発行も行った。
<p>エネルギーの使用の合理化に関する法律</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー管理統括責任者及びエネルギー管理企画推進者の選任 ・中長期計画の策定。 ・定期報告の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー管理統括責任者及びエネルギー管理統括責任者及びエネルギー管理企画推進の選任届の実施。 ・中長期計画及び定期報告の実施。 ・管理標準を作成し、エネルギー管理を実施。 ・2024 年度報告、A ランク評価。
<p>食品リサイクル法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・再生利用等の実施及び目標の設定。2024 年度（令和6 年度）までに食品小売業は 60%。 ・定期報告義務。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度分は2024 年6 月までに報告予定。 ・2024 年度の再資源化は 38.3%、前年より 2.7 低下している。<u>※3 年連続低下</u> <u>※法が要求している水準に達しておらず、低下傾向となっており、改善が必要。</u> ・EMS 目標に設定し、進捗管理を強化していく事が必要。
<p>容器包装リサイクル法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・使用量に応じたリサイクル義務。 ・排出抑制義務（店頭回収の促進、レジ袋の削減）及び報告義務。 	<ul style="list-style-type: none"> ・容器包装の使用量は、80,762 kg。前年比約 2%削減することができました。 ・トレーの店頭回収は、7,775 kg（発泡トレー4,883 kg、透明トレー2,892 kg）。前年比約 104%と前年より増加。<u>※組合員学習会の開催や広報などでの紹介もあり、2 年連続で増加。</u> ・レジ袋削減の取り組みは、持参率 89.0%と前年とほぼ同じ。（前年度 89.1%） ・遵法上の手続き 委託契約は、2025 年 1 月に実施済。 定期報告は、2025 年 6 月に報告予定。
<p>資源有効利用促進法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分別回収のための表示義務 	<ul style="list-style-type: none"> ※点検されているかは不明
<p>フロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フロン引渡しにおいては「委託確認書」の交付と「引取証明書」による引渡し終了の確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フロンの漏えい量の把握、CO₂ 排出量換算で 825.16 トン-CO₂。*1,000 トン以下となり、報告不要。 ・今後、老朽化した冷凍冷蔵ケースの買い替えを早急に進めていく事が必要。
<p>会津若松市、喜多方市におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マイバッグ、マイバスケットの持参の呼びかけ。 ・マイバッグ、マイバスケットの販売。レジ袋の辞退数、マイバッグ、マイバスケット持参率など削減状況を市に報告。 ・レジ袋の無料配布の取りやめ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会津若松市、喜多方市への定期報告の実施。 ・会津若松市と、「レジ袋削減協定」を締結中。 ・福島県とは、「ストップ・ザ・レジ袋実施店」に登録。 ・毎月 8 日と 9 日は、福島県の「マイバッグデー」として、店内放送での啓蒙活動を行っている。

福島県におけるレジ袋の削減に関する協定	・マイバッグ等の持参を呼びかけ、レジ袋の削減の取り組みの推進。	・レジ袋辞退率は 89.0%（前年比 99%）。
PCB 処理特別措置法	・PCB 廃棄物の届出・保管	・微量PCBを含む可能性があるものがあるが、県への登録済（465.4kg）。

内部環境監査の結果

- ・ 消防法に定められている、「通知書」の事前提出の未実施や自衛消防訓練の未実施です。前任者からの引継ぎがされていないことが主な原因です。「通知書」の書式がないところもあり、事務局より書式を入手し、全事業所に送付しました。
 - 次回の監査で確認します。
- ・ 個人情報保護の対応で、電子ファイルへのパスワード設定や個人情報が机の上で保管されていたことです。保護対策の必要性は理解されていますが、煩わしさなどから実施されていませんでした。遵法に対する意識の低下だと思われます。
 - 指摘事項に案して、現在は改善されていますが、個人情報についてはマニュアルの見直しや運用がされておらず、管掌部局からの学習も行われておらず、この間の指摘についての抜本的改善が遅れています。
- ・ 改正フロン法で、ケースからのフロン漏洩が同じケースで発生しており、抜本的対策がされていないままフロンが注入されており、その量が増えてきています。
 - 幸い、全体で 1,000 t は超えていませんが、同じケースからの漏洩が続くことは法的に問題となる可能性があります。
- ・ 目的目標に関する指摘が多くなっています。今年度の監査では、目的目標がしっかりブレイクダウンされ、目標達成のためにPDCAが回されているかを重点としたため、多くの所見が出されています。
 - EMSを事業に役立てることが目的なので、せっかくのツールを活用していくと良いと思います。
- ・ 目的目標が未達成になっている項目に関して、具体的な計画を策定し、実施し、それが有効だったかの検証が不足しているとの指摘があります。
 - EMSの目標には業務目標が設定されており、業務目標を確実にやりきることの必要性を責任者が認識できるような管理者教育、一般教育が必要だと思います。
- ・ 就業管理の指摘が3件あり、「出張報告書」の未作成の指摘でした。規定の理解がされていないことや、知っていてもそのまま決済がされていることから、手順が守られなくなってしまった事例です。規定を理解し、守ることはコンプライアンスの面でも重要です。
 - 報告は仕事の上で重要な事であり、内容の重みには違いがありますが、確実な運用が必要です。
- ・ 食品表示の指摘も3件ありました。農産品の産地間違いと商品とポップの位置が違うというもの

でした。品出しの際に確認することですが、作業手順が守られていないことが原因で発生しています。

- また、冷ケースでの温度管理についての指摘も引き続き発生しています。こちらも、作業手順が確実に行われていないことが原因です。
- 全体を通してしてみると、監査のために今まで書き込みがない進捗報告書に、監査のために体裁を整えるなど、まだ日常業務に定着していない面も散見されました。
- マネジメントシステムの運用は、仕事に役立つことを目的としています。業務目標を確実に達成していくためにPDCAサイクルを活用していく事が大切です。業務とは別物になっているところもあるように思います。
- EMSを活用し、目的目標をやりきるためのPDCAが全員で回せるようにすることで、強い業務体制が確立することと思います。
 - EMSを経営や業務に活かすことが目的ですが、「面倒なもの」との意識が払しょくできていません。今年度は、サステナビリティ政策をメインに目標設定しているので、常勤理事会の課題として受け止めて推進いただくことを願っています。
- また、監査を通じてコンプライアンスの重要性を理解していくことも重要なことだと考えます。

EMS：環境データ

1. 使用量

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	前年比
エネルギー	電気使用量(kwh)	9,150,698	8,735,665	8,253,925	8,124,937	8,204,775	101.0%
	LPG使用量(m3)	79,000	74,819	64,047	65,030	65,922	101.4%
	灯油使用量(L)	30,855	34,603	17,967	19,375	26,789	138.3%
	軽油(L)	128,043	114,078	118,544	108,732	93,574	86.1%
	ガソリン(L)	19,791	19,891	23,973	38,552	29,086	75.4%
資源	水道使用量(m3)	38,598	38,445	37,153	38,099	38,511	101.1%
	紙 合計(kg)	339,811	370,827	368,443	420,953	405,238	96.3%
	商品案内	270,240	293,520	298,240	286,220	345,120	120.6%
	チラシ	55,821	59,099	53,812	45,976	46,013	100.1%
	POP用紙	4,831	7,880	5,919	4,653	5,167	111.0%
	コピー用紙	8,919	10,328	10,472	11,283	8,938	79.2%
	プラ容器(kg)	91,208	79,076	81,533	69,546	80,762	116.1%
	プラ包装(kg)	154,412	20,220	21,325	15,511	7,486	48.3%
	紙 容器(kg)	589	442	776	205	351	170.8%
	紙 包装(kg)	335	607	278	797	395	49.6%
	PETボトル	396	678	340	255	298	116.9%

- 夏期に店舗で、天井照明の消灯やショーケースの照明の一部消灯などの省エネ営業を行い、削減ができました。
- 宅配の営業活動で、人手不足で十分な営業活動ができず、ガソリンの使用量が減りました。
- ひがし店で、スロープの融雪ボイラーの使用が増え、LPGの使用量が増えました。
- ほんまち店で、融雪ボイラーの使用によって灯油の使用量が増えました。
- 宅配の事業拡大によって商品案内の重量が増加しました。

2. CO₂ 排出量

	2013年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	前年比	2013比
電気	5,981	4,936	4,379	729	378	1,099	290.9%	18%
灯油	140	34	86	45	48	199	411.8%	142%
LPG	281	506	224	192	195	67	34.2%	24%
ガソリン	58	53	46	60	90	74	82.5%	127%
軽油	279	199	262	253	246	245	99.7%	88%
CO ₂ 排出量 (t)	6,739	5,728	4,998	1,279	957	1,684	175.9%	25.0%
2013年度比 (%)		85.0%	74.2%	19.0%	14.2%	25.0%		

- ・ 電気は、2023年度までは基礎排出係数で計算していましたが、2024年度からは新排出係数に変わりました。そのため、2024年度は前年よりも多くのCO₂排出がありました。しかしながら、2013年度対比では約75%の削減となっています。
- ・ 灯油は、寒波のためにほんまち店の融雪ボイラーやばんげ店、支部、本部の暖房用として増えました。

3. リサイクル量

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	前年比
牛乳パック(kg)	8,970	9,292	8,454	8,500	7,655	90.1%
発泡トレイ(kg)	4,794	4,580	4,419	4,686	4,883	104.2%
透明トレイ(kg)	2,174	2,318	2,434	2,778	2,892	104.1%
発泡容器(kg)	40,970	41,780	41,860	41,970	41,610	99.1%
内袋(kg)	2,000	2,080	2,270	2,080	2,080	100.0%
商品案内(kg)	300,080	308,630	297,550	276,430	272,810	98.7%
食品残渣(kg)	164,122	159,992	146,090	136,575	110,120	80.6%
廃食油(kg)	13,412	11,200	7,132	9,225	7,561	82.0%
エコステ(kg)	37,090	15,980	18,740	20,540	39,948	194.5%

- ・ トレー回収は、学習会や広報でのお知らせなどを行い、増加傾向となっています。

4. レジ袋辞退率

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	前年比
使用重量(kg)	3,574	3,430	3,139	3,385	3,198	94.5%
レジ袋辞退率	89.7%	89.3%	89.1%	89.1%	89.0%	99.9%

- ・ レジ袋持参率は、90%程度になってきており、高止まりとなっています。

5. 食品リサイクル率

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	前年比
食品残渣総量	372,416	361,962	352,081	333,389	299,048	89.7%
リサイクル量	164,122	159,992	168,458	136,575	110,120	80.6%
リサイクル率	44.1%	44.2%	47.8%	41.0%	36.8%	89.9%

- ・ 食品リサイクルは、食品リサイクル法で求められている目標を達していません。
- ・ 引き続き現場での分別を強化し、リサイクル率を高めていきます。

6. 商品案内配布量、回収率

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	前年比
配布量kg	297,367	309,120	298,240	340,871	345,120	101%
回収量(kg)	300,080	308,630	297,550	276,430	272,810	99%
回収率	100.9%	99.8%	99.8%	81.1%	79.0%	97%

- ・ 担当者ニュースやセンター発行のチラシなどの重量が正確に把握できていない為、配布量の実績が少なくなり、回収率が100%を超えている年があります。

7. 産業廃棄物排出量

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	前年比
安定型混合廃棄物	7,488	7,696	4,680	9,620	8,840	91.9%
汚泥(泥状のもの)	16,720	18,260	18,370	18,260	21,890	119.9%
下水汚泥	24,750	37,400	42,900	37,400	39,050	104.4%
発泡スチロール	12,499	41,780	41,860	41,970	41,610	99.1%
発泡ポリスチレン	60,000	2,080	2,000	2,080	2,080	100.0%
廃プラスチック(硬質)				600	1,490	248.3%
蛍光灯			10			0.0%
伐採材・伐根材		1,100		4,790	2,690	56.2%
廃PCB等			100	100		0.0%
合計	121,457	108,316	109,920	114,820	117,650	102.5%

8. 環境会計

環境保全効果を表す指標				2024年度実績	2023年度との差	
事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギーの投入	水光熱	電気(kWh)	8,204,775	79,838	
			ガス(m ³)	65,922	892	
			灯油(ℓ)	26,789	7,414	
			水(m ³)	38,511	412	
		燃料	軽油(L)	93,574	-298	
			ガソリン(L)	29,086	-9,466	
		エネルギー消費によるCO ₂ (t)	1,684	727		
上・下流コストに対応する効果	事業活動から算出する財・サービスに関する効果	廃棄物の排出(kg)		372,079	-19,412	
		回収リサイクル量(kg)	廃棄物のリサイクル量		117,681	-18,894
			レジ袋使用重量		3,198	-187
			牛乳パック	7,655	-845	
			食品トレー	7,775	311	
商品案内	272,810		-3,620			
ビン	71	-20				
缶	117	-72				
PET	153	-341				

サステナビリティレポート2025

この環境報告書は、2024年度の活動をまとめて作成しています。

発行日 2025年4月30日
対象期間 2024年3月21日～2025年3月20日
発行 生活協同組合コープあいづ
福島県喜多方市字二丁目 4669-2
お問合せ先 コープあいづ 役員室 新山敦司
TEL 0241-22-1041 FAX 0241-24-3504
Mail a_niiyama@coop-aizu.jp

※環境報告書は、コープあいづのHPでも公開しています。
カラーとなっておりますので、ぜひご覧ください。
<https://www.coop-aizu.jp/eco/2025Sustainability.pdf>

